

大震災を機に移住を決断

なか
中在住 藤森さん (2011年移住)
取材 2016年10月



中地区ってどんなところ？

人口1,540人 (584世帯) 2016.12.1現在
湧水に恵まれ、古代縄文の時代から、
田畑を耕し、生活してきた先人達がい
て、現在も稲作やいちご・ミニトマト
の栽培が盛んです。地域の人たちにと
って、子どもの頃の遊び場だった
「韮山反射炉」が2015年7月世界遺産
となり、観光客も増えています。
地区内には、韮山南小学校、
共和幼稚園もあります。



移住のきっかけ

移住する以前は、横浜市内の自宅から都内へ通勤するコンピュータープログラマーでした。生涯続けられる職種ではないという思いと子どもとの時間を大切にしたいことから、転職活動を始めました。2011年3月、家庭菜園の経験もあったので、手始めに静岡県の「がんばる新農業人支援事業」の見学会に参加しました。見学に訪れた伊豆の国市で、ミニトマトの施設栽培を目の当たりにして、家庭菜園とは異なる様相に驚きを感じました。潜在的に、伊豆の国市のような自然環境を日常に求めていたのかもしれない。

東日本大震災では帰宅難民に

伊豆の国市内での見学会を終えた翌週に、東日本大震災が発生しました。当時、都内で勤務していた私は、職場から横浜市内の自宅まで、歩いて帰らざるを得ませんでした。このとき、既に心の中では移住を決めていたのかもしれない。

農業はプログラミングに近い

2011年8月に面接を通過し、10月から伊豆の国市内の受入先農家での研修が始まりました。就農に違和感はありませんでした。ミニトマトは、比較的就農しやすい作物であると思います。ハウス内の温度・湿度管理などの環境設定や計画を立て問題があれば修正する点など、思っていたよりもプログラミングに近いものを感じました。就農で人間関係に悩むこともありましたが、農協の青年部や他の作物の人との交流もあり、就農した当初から仲間がいるような感覚が心強くもありました。

移住してよかったこと

伊豆の国市の自然環境には満足しています。このような環境の中で、子どもたちには健康やかに育ててほしいと願っています。朝晩の食事は、毎日、家族そろってとることができています。移住する以前は、朝早く自宅を出て終電で帰る毎日でした。また、仕事場であるハウスは、自宅からも小学校からも近く、帰宅途中にハウスへ寄った子どもたちを習い事に送っていくこともできます。

移住して大変だったこと

移住した当初、私は研修に必死で周りがよく見えていませんでしたが、妻はカフェやおしゃれなお店がないと嘆いていました。車での移動が基本ですので、歩いて行ける距離にお店や公園がないことにはがっかりしていたようです。また、就農にはある程度理解を示してくれていた妻でしたが、慣れない近所付き合いが大変だったようです。都会の方が同じような境遇の人が多かったようで、こんなはずではなかったと夫婦間がピリピリとした時期もありましたが、子どもが幼稚園に入園してからは友人もでき、そのような雰囲気からも解消されていきました。

これから移住を考える人へ

想像とは違うこともあるので、考えすぎないで、まずは現地へ行ってみることをお勧めします。移住には勢いも大事です。

【奥様より】子どもが小さく思うように身動きが取れなかったこともあって、移住した当初は本当につらく、知人から「5年経てば諦めがつくよ。」と励まされていました。しかし、住めば都というように、5年経った今の暮らしには本当に満足しています。



11月下旬にハウスを訪れたときは夫婦で仲良く作業をしていました。収穫を終えた今年8月には家族で伊豆半島をゆっくりと旅行したそうです。家族との時間を大切にしている様子が印象的でした。

編集：政策推進課



ファミリーサポートセンター

子育てを応援したい「まかせて会員」と子育てを応援してほしい「お願い会員」が助けたり、助けられたりして、子育ての援助活動を行うネットワークです。

お願い会員は、幼稚園・保育園の送り迎えや急な用事の際に子どもの預かりなどの援助を1時間600円～700円で受けることができます。共働きでも安心のサポート体制です。